

第 5 回 衛星情報共有の取り組み 発表会 報告書

2013 年 4 月 7 日

日本大学 嶋崎信吾

UNISEC/UNISON 衛星ワーキンググループでは 2013 年 3 月 16 日に衛星情報共有の取り組みとして第 5 回の発表会を実施した。以下、本発表会の実施結果を報告する。

1. 目的

1.1. 本取り組みの目的

UNISEC 衛星団体で技術情報を共有し以下の効果を狙う。

- 各団体での開発活動の促進
- 将来的にUNISECとして、加盟団体が協力し一つのことを行う基盤作り

1.2. 本発表会の目的

- 口頭での発表による正確かつ効率的な情報共有の実施
- 発表者が発表と質疑応答を通じたその場でフィードバックを得られる機会の提供

2. 開催日時・開催場所

発表会の開催日時および概要を表 1 にまとめる。

表 1 発表会概要

日時	2013 年 3 月 16 日(土) 10:30-17:00
場所	東京大学 本郷キャンパス 工学部 7 号館 2 階 73 号教室
発表テーマ	「プロジェクトマネジメント(新入生教育, スケジュール管理等)」
発表大学	合計 5 大学 加えて UNISON より発表 1 件
参加者数	51 名
参加団体	北海道大学, 帝京大学, 東京工業大学, 首都大学東京, 都立産業技術高専, 東京大学, 東京理科大学, 日本大学, 創価大学, 慶應義塾大学, 東海大学, 大阪府立大学, 九州大学, 以上 13 団体

3. 当日の流れ

3.1. タイムテーブル

当日は表 2 に示すタイムテーブルを設定し運営を行った。実際の発表会も概ねこのスケジュールに沿う形で進行した。

表 2 タイムテーブル

開始	終了	内容	担当者
10:30	10:40	諸注意, アンケート説明, etc...	[運営]
10:40	11:05	TeikyoSat プロジェクトのマネジメントについて	[帝京大] 河村 政昭 助教
11:05	11:30	超小型人工衛星「ORBIS」の開発へ向けたスケジュール管理	[首都大] 増田 充宏
11:30	11:55	東京大学 中須賀・船瀬研究室における衛星運用マネジメント	[東大] 五十里 哲
11:55	13:15	休憩	-
13:15	13:30	'BoCCHan-1'の紹介	[理科大] 木村先生
13:30	13:55	東海大学 新入生教育について (仮)	[東海大] 福田 吉記
13:55	14:20	SSSRC の新入生教育について	[阪府大] 船越 貴寛
14:20	15:00	共同開発でのマネジメント	[UNISON CanSat Team] 滝澤 潤一, 門倉 美幸
15:00	15:20	休憩	-
15:20	15:40	衛星 WG2012 年度活動総括	[今年度代表] 滝澤 潤一
15:40	16:00	衛星 WG2013 年度活動展望	[来年度代表] 嶋崎 信吾
16:00	16:20	MEXT プロジェクトに関する説明	[日大] 宮崎先生
16:20	16:40	質疑応答	-
16:40	16:50	アンケート記載	-
16:50	17:00	終わりの挨拶・アンケート回収	[運営]

3.2. 発表会内容

初めに取り組みに関する説明と、今回初の試みとなった発表資料の Web 閲覧方法に関する説明を行った。

今回の発表会は「プロジェクトマネジメント(新入生教育, スケジュール管理等)」をテーマに選び, 合計 6 件の発表を実施した。従来の発表会では発表を「基礎→設計→試験→運用」という開発フェーズ順に執り行い参加者の理解補助を狙っていたが, 今回はそのテーマの特異性もあり, 前半はスケジュール管理や運用体制に関する発表を(3 件), 後半は新入生教育に関する発表(2 件)を執り行い, さらに今年度 UNISON として行ってきた Cansat の共同開発に関する発表(1 件)を行った。各発表の時間配分については, 前回・前々回とアンケートで好評価を頂いていた発表 15 分, 質疑応答 10 分の配分を維持して進行した。今回は従来と比較して低学年の学生にもとつきやすいテーマを扱ったこともあり, 質疑応答では学生間で盛んな議論が行われた。

加えて, 今回は特別講演として発表の合間に「BoCCHan-1 の紹介」を木村先生にして頂いた。また, 年度末ということで今年度の活動総括及び来年度の活動展望を話し合い, さらに宮崎先生より来年度始動する「缶サット・超小型衛星を用いた創造的科学技术人育成ネットワークの構築」事業に関する説明をして頂いた。こちらについても質疑応答で盛んな議論が行われた。発表会の様子を以下に示す。



図 1 発表会の様子

今回も発表会の終了後にアンケートを実施した。その結果を次節に示す。

4. アンケート集計結果

当日行ったアンケートのうち、発表会全体に関する項目の集計結果を以下にまとめる。

4.1. 今回の発表会について

参加者が発表会の良否を1～5（悪～良に対応）の5段階で評価し、表に示す結果を得た。全体の平均は4.57であり、前回に引き続き参加者より非常に高い評価をいただいている。

表 3 発表会良否集計結果

評価	1	2	3	4	5
票数	0	0	1	14	22

回収した意見の中には、新入生教育やスケジュール管理について各団体が抱えている問題には共通項が多く、参考になったという意見が多かった。今回の発表会は会として1つの答えを求めるタイプのテーマではなく、各団体のマネジメントについて紹介しそれを参考にして自団体の活動に活かしてもらおうという狙いがあったので、アンケートでこのような結果を得られたことは良かったと言える。

また、ミニイベントに関しても活発な意見交換ができて有意義だったという意見を頂いている。しかし一方で、終日ただ発表を聞き続けるのは辛いという意見も頂いており、今後ミニイベントは聴講者参加型のイベントも検討していく必要があると考えられる。

加えて、テーマが大味で各発表に統一感がないように感じたという意見を頂いた。第4回発表会の「磁気姿勢制御」のようにテーマを限定的にして運営していくかどうかも含め、テーマ選定に関しては今後柔軟に対応していきたい。

4.2. 次回テーマについて

次回の発表会で希望するテーマについては「CDH」を望む意見が多かった。これは以前からも望む意見が多く、かつまだ扱っていないテーマであるため、次回発表テーマを選定する際の参考としたい。

4.3. 取り組みへの参加について

今後、本取組へどのように参加したいかを「企画側」、「発表者」、「どちらでもない」の3択の選択式として質問した。回答の集計結果は以下の通りとなった。

- 企画側として参加したい: 14名
- 発表者として参加したい: 7名
- どちらでもない: 11名

前回に比べ企画側での参加を希望する人数がわずかに増加した。新年度は運営により多くの人を必要とするため、十分に検討しつつ対応を行っていきたい。

5. 総括

2013年3月16日に本取り組み5回目となる発表会を実施した。

今回の発表会は総会やWSとの併催ではなく発表会単独での開催であったが、総会やWS併催時同様多くの方に参加して頂き、大変活気のあるイベントとなった。今回は初の試みとして発表資料のWEB公開を行い、途中ネットへのアクセスが途切れるなど問題も生じたが、大きな混乱もなく円滑に発表会を運営することが出来た。

今回の発表会では今年度の活動総括と来年度の活動展望についても議論が行われた。多くの意見を頂くことができ要望の吸い上げという点においては成功だったと言える。今回頂いた意見をもとに来年度活動展望を完成させ、新年度はそれに基づいて活動していく予定である。また、発表会運営に関しても7月の総会併催時に向けて今回の反省点を踏まえて改善していく。

謝辞

本発表会の開催にあたっては会場の確保から発表会への参加まで様々な場面で多くの先生方にご協力を頂きました。感謝致します。